

第1 渡島管内の概況

1. 管内の概況

渡島管内は、北海道南西部、渡島半島に位置し、日本海、津軽海峡及び太平洋・噴火湾の3つの海域に面しており、南西端の松前町から北端の長万部町までの430.5kmに及び非常に長い海岸線を有しています(旧熊石を含む)。

総面積は3,937.46km²で全道の4.7%を占め、長崎県(約4,131km²)に匹敵する広さです。2市、9町からなり、人口は365,492人と全道の7.2%を占めています。

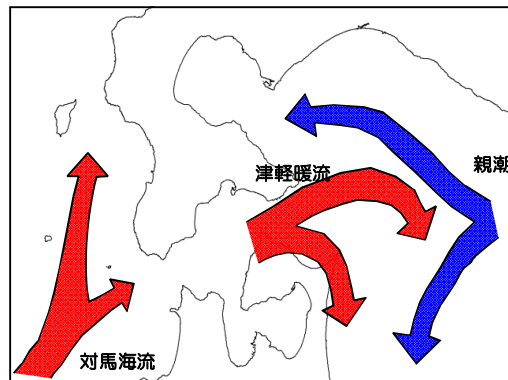
市町村名	人口(人)	世帯数(戸)	総面積(km ²)	海岸線(km)	備考
松前町	6,030	3,647	293.25	73.2	
福島町	3,467	1,908	187.25	33.1	
知内町	3,898	1,984	196.76	19.0	
木古内町	3,644	2,043	221.86	15.7	
北斗市	43,660	22,189	397.44	20.4	H18.2.1合併(上磯町、大野町)
函館市	240,218	138,987	677.87	125.8	H16.12.1合併(函館市、戸井町、恵山町、楳法華村、南茅部町)
鹿部町	3,570	1,854	110.63	14.6	
森町	13,865	7,436	368.79	34.8	H17.4.1合併(森町、砂原町)
八雲町	14,779	8,024	956.08	55.7	H17.10.1合併(八雲町、熊石町)
長万部町	4,817	2,785	310.76	38.2	
七飯町	27,544	14,112	216.75	0.0	
合計	365,492	204,969	3,937.46	430.5	

出典:住民基本台帳(令和6年1月1日現在)、国土交通省国土地理院「全国都道府市区町村別面積調(令和5年10月1日現在)」

2. 水産業の概況

渡島管内では、日本海側は対馬海流(暖流)が北上し、その一部は津軽海峡を経て太平洋側に達します。また、太平洋側は、栄養豊富な親潮(寒流)が北から流入します。特に、暖流と寒流の混じり合う海域は魚の餌となるプランクトンが多く発生する好漁場となっています。

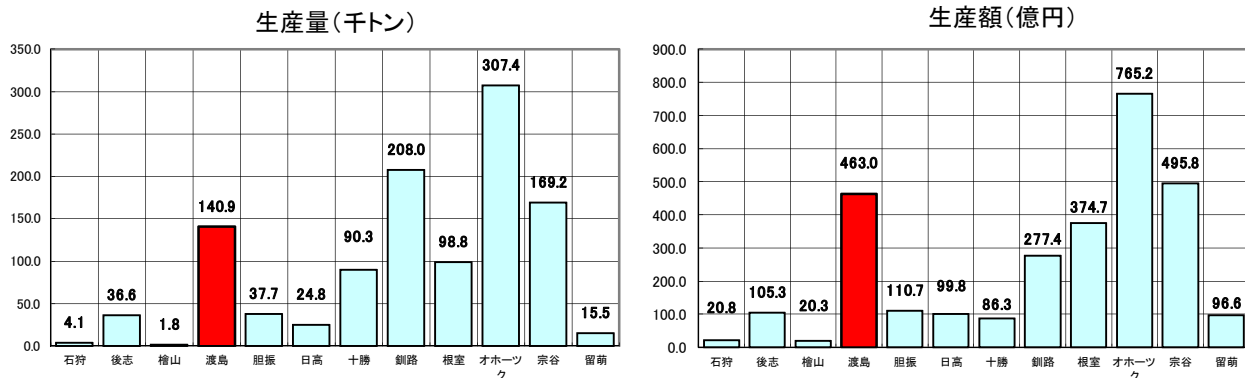
日本海側では、うに・あわび等の採介藻漁業、いか釣り漁業、まぐろ一本釣り漁業など、津軽海峡から太平洋側では、こんぶ漁業・養殖業、まぐろ延縄漁業、各種刺し網漁業や定置網漁業など、噴火湾では、ほたてがい養殖業、かれい刺し網漁業、えびかご漁業など、海域ごとに多種多様な漁業が行われています。



令和5年の漁業生産高は、生産量は140.9千tで全道(1,134.9千t)の12.4%、生産額は462.9億円で全道(2,916.1億円)の15.9%を占め、道内有数の漁業生産地域となっています。

近年は、海洋環境がめまぐるしく変化し、漁業生産高は不安定な傾向にあり、漁業就業者の減少や高齢化が進んでいます。こうした中、振興局では、適切な資源管理や育てる漁業の推進、地域水産物の消費拡大や付加価値の向上、担い手の育成などの取組みを進めています。

【振興局別漁業生産高(令和5年)】



トピックス 令和6年(2024年)を振り返って

1) 令和6年の当管内の漁業のようす

令和6年の渡島総合振興局管内の水揚げは、暫定値ですが漁獲量12万3,000トン(R5年14万1,000トン)、漁獲金額333億円(R5年461億円)となっています。

魚種別では、養殖ホタテガイが、5万8,000トン(前年比103%)と昨年に続き好調な結果となりましたが、単価安の影響により金額では113億円(前年比52%)と、昨年に比べ大幅な減額となりました。これは、令和5年8月以降の中国による日本水産物の禁輸措置や貝毒の長期化等により、ホタテガイの価格が大きく落ち込んだことによるものです。

なお、近年漁獲が増加しているブリについては、1万40トンと、引き続き好調な漁獲が続いていることや、コンブについても全道的には不漁となりましたが、当管内のコンブは、3千470トンと、昨年からは若干の減少にとどまり、大幅な落ち込みとはなりませんでした。

しかし、スルメイカは、976トンと依然として低位の漁獲が続いているほか、秋さけについても、101トンと不振のうちに、終漁となりました。

近年は温暖化等により渡島管内でも海洋への影響が著しく、魚介類の漁獲時期や漁獲量の変化が著しいことから、今後も地元漁協や漁業者・関係機関と情報共有を密にし、元気な浜づくりに取り組んで参ります。

2) 管内水産物のPRや魚食普及への取組を推進

渡島管内は、日本海から太平洋までの広い海域を有し、その中で漁船漁業や養殖漁業などにより、多種多様な魚介類を漁獲していますが、管内で漁獲される水産物のPRや魚食普及を目的に、当振興局の職員自らが次のような取組を行っています。

1.「育てる漁業体験塾」の実施

市内小学生を対象とし、ヒラメ稚魚の飼育・観察から放流までを1年を通じて体験し、管内水産物や漁業、水産資源について学んでもらう「育てる漁業体験塾」を実施した。10月上旬には、ヒラメ約200尾を市内の漁港から放流し、生徒らは「大きく元気に育てね」と願いを込め放流した。

2.学校給食へのブリの食材提供及び食育事業の実施

9月下旬、函館市内の小学校(16校)に、地元のブリを食べてもらおうと、学校給食へブリの切り身、約3,600切を提供。また、そのうちの1校で食育事業として、給食時に近年函館市内でブリの漁獲が増えている理由を職員手作りの紙芝居により、わかりやすく説明し好評を得た。

3.振興局前庭での朝市開催

10月中旬、渡島の水産物のPRを目的に、管内の漁業士会と連携し、振興局前庭で朝市を開催。朝市では、漁業士が漁獲した鮮度抜群の魚介類をはじめ加工品などを浜値で販売。当日は開始前から新鮮な魚介類を求める長蛇の列が見られ、鮮魚の一部は販売開始後、十数分で売り切れるなどの好評を博した。

4.料理教室の開催

11月下旬、一般消費者を対象としたブリの料理教室を開催。当日はブリの水揚げが盛んな、南かやべ漁業協同組合女性部5名を講師に招き、16名の参加者がブリの創作料理にチャレンジした。参加者からはブリの新たな調理方法がわかり、大変勉強になったとの好評を得た。

このほかにも、職員が一丸となり、ブリの水揚げ見学会の開催や専門学校生によるブリ料理コンテストへの協力、渡島管内のスーパーマーケットと連携したブリ弁当の販売など、ブリの消費拡大への取組を推進しました。

※ 本誌「渡島の水産」は、令和5年のデータを掲載していますがトピックスのみ令和6年の内容を掲載しています。

【参考】 渡島総合振興局管内の概要

1 基本項目

項目	全道	渡島管内	割合	振興局別順位	摘要
面積(km ²)	83,424	3,937	4.7%	10位	全国都道府県市区町村別面積調 (国土交通省国土地理院) (令和5年10月1日現在)
人口(人)	5,093,983	365,492	7.2%	4位	住民基本台帳(総務省) (令和6年1月1日現在)
漁業就業者数 (人)	19,938	4,189	21.0%	1位	2023年漁業センサス(農林水産省) (令和5年11月1日現在)
漁業経営体数	9,845	2,482	25.2%	1位	2023年漁業センサス(農林水産省) (令和5年11月1日現在)
沿岸漁協数	71	14	19.7%	1位	北海道水産林務部調べ (令和6年8月1日現在)
港湾数	41	5	12.2%	3位	北海道水産林務部調べ (令和5年4月1日現在)
漁港数	243	57	23.5%	1位	北海道水産林務部調べ (令和5年4月1日現在)
漁船数	21,735	4,875	22.4%	1位	北海道漁船統計表 (令和5年12月末現在)
漁業生産量(t)	1,134,915	140,924	12.4%	4位	令和5年北海道水産現勢
漁業生産金額 (百万円)	291,611	46,295	15.9%	3位	令和5年北海道水産現勢

※八雲町熊石地区を含む

2 主要魚種の漁獲量(令和5年)

項目	全道	渡島管内	割合	振興局別順位	摘要
ほたてがい	423,756	56,689	13.4%	3位	1位:オホーツク(210,013t)
するめいか	3,778	1,840	48.7%	1位	
ぶり	13,886	7,769	55.9%	1位	
すけとうだら	11,407	8,229	72.1%	7位	1位:オホーツク(33,890t)
こんぶ	12,118	4,149	34.2%	1位	
さけ	58,369	280	0.5%	10位	1位:オホーツク(35,468t)
さば	18,238	14,270	78.2%	1位	
みずだこ	11,332	1,460	12.9%	3位	1位:宗谷(2,624t)
やりいか	370	259	70.0%	1位	
なまこ	1,698	258	15.2%	2位	1位:宗谷(701t)
まぐろ	380	326	85.8%	1位	
きたむらさきうに	325	99	30.5%	1位	
わかめ	163	153	93.9%	1位	

出典: 令和5年北海道水産現勢

※単位:トン、八雲町熊石地区を含む